

2021/4/27

(うと Q 世話し そのままでいいの、かな?)

矛盾

「俺の盾が世界で一番強い盾だ。どんな矛でも防ぐ」

方や

「己の矛が世界で一番強い矛だ。どんな盾でも突き通す」

と、辻褄が合わない。

この話が元で「矛盾」という言葉が生まれました。

最近では、マイナンバーカードの普及により、データが一元化されれば、今迄バラバラだった社会、労働保険、税金（経費及び事業所得税）全てが一通し、今迄隠しておおせていた矛盾が白日の下に曝け出される事になります。

なので、個々の手続きや報告内容の縦横斜めに事実の矛盾がないよう、気を使っております。簡単に言えば「嘘があってはならぬ。在っても直ぐにばれる」

イヤもう AI を使う迄もなく、エクセルのフィルタリング機能で「アンマッチ検索」をするだけで既にバレバレなのですが、単に自分の様な零細企業にまで回す手がないだけの「お目こぼし猶予」でしかありません。

一方、矛盾は矛盾であって良いという考え方もあります。

矛盾ゼロの一辺倒、金太郎飴が「退屈」と、却って逆の「偏り」を生むからです。

例えば、身体の健康面を考えれば「油物ゼロ」

ですが、こればかりだと活力が生まれず、我慢というストレスが溜まり、むしろ心の不健康を招きます。

それで心の健康を考えれば「油物は OK」になります。

ですが、之は「矛盾」

では、どうするかと言えば対立概念ではなく、包含概念を持ち込む事を思いつく訳です。

「成る丈油物はなし。でも、時には油物も OK」

という具合です。

つまり

「健康は身体だけではなく、心身の健康バランスが大切です」

と言う考えにたどり着く訳。

そうして前段の話と、後段のこの話にも包含関係を用いると

「矛盾があってはならない。何故なら不正の温床になるから。しかし時には矛盾があるもよし。何故なら、矛盾を許容しないと却って流動性を失い硬直化するから」

の両者併存、共存、両存関係。

ドイツ哲学の雄、ヘーゲルの弁証法で言えば、定位、反定位、そして止揚（レベル・リフトアップ）

之を更に分り易く申せば

「弊害にしか見えない「矛盾」だが、世の中に無用な物は何一つない。皆何かの役に立つ。無用に見える矛盾が新たな視点価値を産むきっかけになる事もある」

という具合に。

「いずれ物は考え様。取り方、捉え方次第。絶望する勿れ。諦める勿れ。必ず道はある」と。

しかし一方でこの言は、それこそ扱い方次第で「白を黒に言いくるめる」道具にもなりかねません。

事実、「それ」即ち

「人間は事実（真実）に則する生き物ではなく、心理（取り様、捉え様）に則する生き物である」事を傍証する事実が多々ありました。

「事実の生き物」ではなく「心理の生き物」

同じ事が、その時々の「心理のプリズム作用＝気分」で正反対に思えてしまう。

それが度々、歴史的災禍を産んできた。

しかし、良かれ悪しかれ、この「気分の有無」こそが、人間と他の生物を決定的に分けている。

けど、今コロナ渦

「そのままでいいの、かな？」